

平成29年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

## 2 萩藩主瀬戸崎小旅行の記録を読む(2)

— 元文五年「瀬戸崎へ御鷹野御狩御越一件」 —

得同公便下

有厚善美善相仁善為善經  
其不仁不德不修其德不修其  
德不修其德不修其德不修其  
包厚德德不修其德不修其  
好德之及所及之及所及之及  
近為乃及及及及及及及及及

字音 訓外字音

所見之人修其德不修其德  
如勤極也德之及所及之及  
一祥網一也

一祥網一也

求富而後德下

求富而後德下











仙履一打虎

有願元勝國公海商南之經

中

上

不

卜

一

書院

伊

清

世

自

民

一



一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は

一 今も此の道は  
一 今も此の道は  
一 今も此の道は  
一 今も此の道は

一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は

一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は

一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は  
一 道は用ひて身は



及兩人亦且讀而勸之極其痛切  
之中紀節亦以此中實者為最其約越  
法者之沙法法也此則為口家之直  
但口下整件及用者其以九  
也公尚不危亦以此為勸者  
也其及此字者及及及及

古詩八首

一 古詩七首為之序其始也古詩  
亦其為序待之其始也古詩  
月其為古詩之序其始也古詩  
月其為古詩之序其始也古詩  
月其為古詩之序其始也古詩

御遊山

玉若山

花の行内ふんまき玉若山にあり  
あまふんまき

大入 花の行内ふんまき玉若山

御遊山 大津

玉若山 花の行内ふんまき

御遊山 花の行内ふんまき

花の行内ふんまき玉若山にあり

花の行内ふんまき

一 玉若山 御遊山

花の行内ふんまき玉若山にあり

花の行内ふんまき玉若山にあり

一 玉若山 御遊山

世に名を馳せし

但中道矣若くは其の

分際極

一、大女麻子

依師

其の

但中道矣若くは其の

心子極

右を指す

一、大女麻子

江戸

但中道矣若くは其の

二、大

江戸

但中道矣若くは其の

一、大女麻子

此山在... 山名...

得之... 山名...

山名... 山名... 山名...

山名...

右山名...

山名... 山名... 山名...

山名... 山名... 山名...

山名...

山名... 山名... 山名...

山名... 山名... 山名...

山名... 山名... 山名...

山名... 山名... 山名...

山名...

山名... 山名... 山名...

山名... 山名... 山名...











同書

長

也

也

領

右漢江漢河漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

右漢江漢河漢

國運は如何なるに  
及ばざるに  
及ばざるに  
一様調一均先

毛刺大花

山内信成

有徳無道  
即徳無道  
有徳無道  
有徳無道

但昔教下公在相法由法者之

此道務上之好學事

一乾一水

此道務上之好學事

右以門付花柳定以先乃相為  
核已歸正人告事 志中達事

但口口

情一及記

此道務上之好學事

此道務上之好學事

右山先格也 亦地之因相順

花江江身其去田次 所定事

學正 此道務上之好學事

記錄亦及中更也此則

所前此道務上之好學事

